

平成 24 年度 監査報告書

公益社団法人埼玉県診療放射線技師会定款 22 条に基づき、平成 25 年 4 月 22 日 18 時から本会技師会事務所において、会長、副会長、総務担当常務理事及び財務担当常務理事の立ち会いの下で、本会の平成 24 年度事業執行並びに財産状況について監査を実施しました。

本監査報告書を作成し、次のとおり報告いたします。

1 監査の方法の概要

- (1) 会計監査について、帳簿並びに関係書類の閲覧など必要と思われる監査手続きを用いて、財務諸表並びに収支計算書の正確性を検討しました。
- (2) 業務監査について、理事会及びその他の会議に出席し、理事からの事業報告を聴取し、関係書類の閲覧など必要と思われる監査手続きを用いて、事業執行の妥当性を検討しました。

2 監査の結果

- (1) 会計帳簿は、決算の状況を正しく示しており、指摘すべき事項は認められません。
- (2) 事業報告書は、昨年度の社団法人埼玉県放射線技師会の事業・運営の状況を正しく示しているものと認めます。
- (3) 理事の会務執行に関し、不正の行為又は法令もしくは定款に違反する重大な事項は認められません。
- (4) その他、特に指摘すべき事項は認められません。

3 意見

本会のさらなる発展のために、監査結果の補足として述べさせていただきます。

はじめに、今回の監査において特記すべきは、本会が公益社団法人格を取得して 1 年目であり、今回初めての決算になります。公益社団法人格を取得し維持してゆくには「公益目的事業比率 50% 以上」を満たす必要があり、仮に 50% を下回った場合は法人格の認定取り消しにつながる恐れがあります。

この度の会計監査においては、公益事業比率 55% の指数を得ており、公益法人としての要件が満たされたこととなります。これは、本会の組織・構成、事業計画、運営が適正であり、さらに円滑な事業推進の結果であると思われます。役員・理事各位ならびに各委員の皆さまのご尽力に心より感謝申し上げます。

(1) さて、各論に入ります。そもそも厳しい財務状況下で事業を進めることは容易なことではありません。本会の運営は会費が資金源になっていることは言うまでもなく、そのための入会促進は本会にとって重要な事業であります。毎年実施している新卒者に対するフレッシューズセミナー(SART セミナー)、ダイレクトメールや日本医療科学大学に赴いて実施された(就職時の)入会促進の声かけなど、関係役員のアイデアと行動力に敬意を表します。

一方、今回の会計監査において、帳簿の説明のなかで、『貸し倒れ』という、聞き慣れないことばが飛び込んでまいりました。これは何年分かの会費を滞納のまま退会した会員が、本来納めるべきはずの未回収会費分です。帳簿上は『貸し倒れ』損失として計上されるのだそうです。このように、依然として理解のない(元)会員がいるということは誠に遺憾であります。

(2) 会員の誰もが参画できる技師会の構築が望ましく、そのためには支部会の活動が重要であります。24 年度の新企画として、各支部をまたがって実施された合同勉強会(シンポジウム)が支部活動の一環

として自発的に発案・企画され、大勢の会員が参加するなかで活気に満ちた大会であったことは非常に評価されるものであり、その積極的な活動ぶりに敬服いたします。

また、県内各地域の自治体が主催する『健康祭り』への参加は、医療放射線の安全性・有効利用の啓蒙活動としてまさに公益性が評価される本会の特色であります。益々の活躍を期待しております。

(3) 公益活動の一環として活動している被ばく相談は、本会の活動のみならずわれわれ診療放射線技師に求められている貴務であります。昨年度の監査報告でも記しましたが、これまで蓄積されたQ&Aをデータベース化して、会員個々の共通した知識装備として活用できるようなシステムの構築が望まれます。

学術大会に併設して同時開催された市民公開講座も市民から好評を得た旨の報告を伺っております。上述した支部会における公益活動と併せて、公益社団法人として直接的に市民に対する利益の増進を寄与する活動部隊であり、益々の活躍を期待しております。

(4) 本会会誌『埼玉放射線』の発行は、編集担当をはじめ関係各位のご尽力によって、読み応えのある誌面作りがなされております。24年度も、学術委員会との合同企画として『消化管検査における読影補助への取り組み』、『診療放射線技師による一次読影について』、『演題発表抄録および発表後抄録の書き方』(60巻227号)、『最新CT特集』(60巻228号)、『Discovery CT705HDの使用経験』(61巻229号)、『最新の放射線治療』(61巻230号)は、医療現場と密着した学術資料として評価されるものであります。

本会のホームページは、学術案内(70回:年間更新回数、以下略)、巻頭言(6)、会員向けお知らせ(22)、報告(3)、メールマガジン配信(8)と、内容の充実を反映してアクセス数も躍りに増え、24年度は118044件との報告を伺っております。編集担当をはじめ関係各位のご尽力に感謝いたします。

(5) 学術大会は本会最大のイベントであり、毎年志向を凝らして綿密な準備の基で開催されております。また、今回は過去最大であった昨年度を上回る演題数が集まり、大勢の会員が参加するなかで活気に満ちた学術発表の場であったことは非常に評価されるものであります。

今回の新企画としてクラウドシステムを利用した読影コーナを企画し、モニター読影・デジタル回答システムを採用するなど、参加者から高評価を得たと伺いました。今後の学術大会の展開戦略に期待しております。

認定講習会は昨年度と同様に、胸部、上部消化管、CTを実施し、参加者増加の目的を達成できたこと、さらに新企画として救急セミナー、マネジメントセミナーを実施して、好評を得たことは非常に評価されるものであります。

このように益々大規模になっていく学術企画ではありますが、24年度の収支決算において僅かではありますが黒字に転じており、関係各位のご尽力に感謝いたします。

(6) 平成24年度開催された理事会及び常務理事会は延べ12回開催され、平均84.5%の出席率でありました。日常業務をこなしながら理事会へ参加することは容易なことではなく、役員各位の責任感と熱意に心から敬服いたします。

以上、平成24年度の事業・運営について若干意見を述べさせていただきました。また、只今申し上げませんでした事業につきましても適切に遂行されたことを確認しております。

平成25年5月25日

公益社団法人埼玉県診療放射線技師会

監事

山本英明 

同

監事

鈴木正人 